

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2024年12月12日(12.12.2024)



(10) 国際公開番号

WO 2024/252900 A1

(51) 国際特許分類:
A01K 23/00 (2006.01)

〒1080073 東京都港区三田三丁目 1 1 番 3 6
号三田日東ダイビル Tokyo (JP).

(21) 国際出願番号: PCT/JP2024/018390

(22) 国際出願日: 2024年5月17日(17.05.2024)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2023-094372 2023年6月7日(07.06.2023) JP

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 小松原 大介 (KOMATSUBARA, Daisuke); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

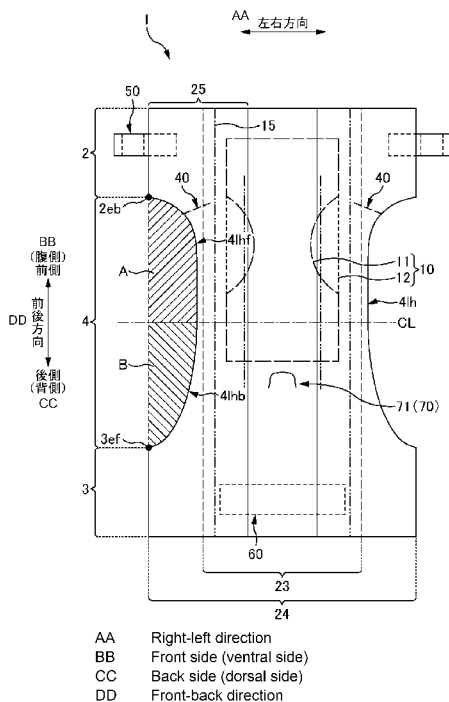
(74) 代理人: 弁理士法人一色国際特許事務所 (ISSHIKI PATENT & TRADEMARK FIRM);

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MU, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, CV, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SC, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS,

(54) Title: DIAPER FOR PETS

(54) 発明の名称: ペット用おむつ



(57) Abstract: A diaper (1) for pets has a ventral-side waist section (2), a dorsal-side waist section (3), a crotch section (4), a pair of fastening tabs (50), and a tail insertion section (70). A pair of leg-hole sections (4lh) are provided on both sides of the crotch section (4) in the left-right direction. A penetration section (40) penetrating the crotch section (4) in the thickness direction is provided on the ventral side relative to the center position in the front-back direction. When the diaper is in an extended state, in the area of portions enclosed by the peripheral edges of the leg-hole sections (4lh) and a straight line connecting a dorsal-side end (2eb) of the lateral edge of the ventral-side waist section (2) in the right-left-direction and a ventral-side end (3ef) of the lateral edge of the dorsal-side waist section (3) in the right-left-direction, the area (A) of a portion located on the ventral side relative to the central position in the front-back direction is larger than the area (B) of a portion located on the dorsal side relative to the central position in the front-back direction.



IT, LT, LU, LV, MC, ME, MK, MT, NL, NO, PL, PT,
RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF,
CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE,
SN, TD, TG).

添付公開書類：

一 国際調査報告（条約第21条(3)）

(57) 要約：腹側胴回り部（2）と、背側胴回り部（3）と、股下部（4）と、一对のファスニングタブ（50）と、尻尾挿入部（70）と、を有し、股下部（4）の左右方向における両側に、一对の脚繰り部（41h）が設けられており、前後方向の中央位置よりも腹側に股下部（4）を厚さ方向に貫通する貫通部（40）を有するペット用おむつ（1）であって、伸長状態において、腹側胴回り部（2）の左右方向の側縁の背側端（2eb）と、背側胴回り部（3）の左右方向の側縁の腹側端（3ef）とを結んだ直線と、脚繰り部（41h）の周縁と、によって囲まれる部分の面積のうち、前後方向の中央位置よりも腹側における面積（A）は、前後方向の中央位置よりも背側における面積（B）よりも大きい。

明 細 書

発明の名称： ペット用おむつ

技術分野

[0001] 本発明は、ペット用おむつに関する。

背景技術

[0002] 従来、犬や猫等のペットに装着されるペット用おむつとして、ファスニングタブ（ファスニングテープ）によってペットの胴回りに固定するタイプのテープ型ペット用おむつが知られている。例えば、特許文献1には、一对のファスニングテープと、当該ファスニングテープに係止するための止着領域と、脚開口部に係止するための一对の円弧状領域にミシン目を備え、様々なサイズの胴周りや脚回りを有するペットに対応することが可能な、テープ型のペット用吸収性物品が開示されている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2022-154828号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] しかしながら、従来のテープ型のペット用おむつにおいて、脚回り開口を形成する脚繰りの挟れが小さいと、装着時にペットの両脚の脚の付け根に干渉しやすく、装着性が悪化したり肌トラブル等の原因となったりするおそれがある。一方、脚繰りの挟れが大きいと、装着時に両脚の間で位置ずれが生じやすくなり、排泄漏れ等が生じるおそれがある。

[0005] 本発明は、上記のような問題に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、良好な装着性を備え、位置ずれが生じ難いペット用おむつを提供することにある。

課題を解決するための手段

[0006] 上記目的を達成するための主たる発明は、伸長且つ展開状態において、互

いに交差する前後方向と左右方向と厚さ方向とを有し、腹側胴回り部と、背側胴回り部と、前記前後方向において前記腹側胴回り部と前記背側胴回り部との間の股下部と、前記腹側胴回り部の前記左右方向における両側に配置された一对のファスニングタブと、ペットの尻尾を通すための尻尾挿入部と、を有し、前記股下部の前記左右方向における両側に、前記腹側胴回り部及び前記背側胴回り部よりも前記左右方向における幅が狭くなった一对の脚繰り部が設けられており、前記前後方向の中央位置よりも腹側に、前記脚繰り部の周縁から前記左右方向の内側へ向かって、前記股下部を前記厚さ方向に貫通する貫通部を有するペット用おむつであって、伸長状態において、前記腹側胴回り部の前記左右方向の側縁の背側端と、前記背側胴回り部の前記左右方向の側縁の腹側端とを結んだ直線と、前記脚繰り部の周縁とによって囲まれる部分の面積のうち、前記前後方向の中央位置よりも腹側における面積は、前記前後方向の中央位置よりも背側における面積よりも大きい、ことを特徴とするペット用おむつである。

本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

発明の効果

[0007] 本発明によれば、良好な装着性を備え、位置ずれが生じ難いペット用おむつを提供することができる。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]展開且つ伸長状態であるおむつ1の平面図である。

[図2]図2Aは、図1のA-A矢視について表す概略断面図である。図2Bは、図1のB-B矢視について表す概略断面図である。

[図3]図3A及び図3Bは、おむつ1をペットに装着させる際の動作について説明する図である。

[図4]脚回り開口LHの形状について説明する図である。

[図5]図4の展開且つ伸長状態のおむつ1を、前後方向における中央位置CLにて二つ折りにした状態を表す図である。

[図6]貫通部40の詳細について説明する図である。

[図7]ミシン目（貫通部40）と脚回り弾性部材15とが重複する場合について表す図である。

[図8]図8A及び図8Bは、ミシン目（貫通部40）破れ抑制機構について説明する図である。

[図9]図9A及び図9Bは、ミシン目（貫通部40）と腹側脚繰り部41hfの周縁との位置関係について説明する図である

[図10]図10A及び図10Bは、貫通部40の変形例について表す図である。

[図11]尻尾挿入部70配置について説明する図である。

[図12]尻尾挿入部70の変形例について表す図である。

[図13]展開且つ伸長状態のおむつ100を表す平面図である。

[図14]図13の展開且つ伸長状態のおむつ100を、前後方向における中央位置CLにて二つ折りにした状態を表す図である。

発明を実施するための形態

[0009] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

（態様1）

伸長且つ展開状態において、互いに交差する前後方向と左右方向と厚さ方向とを有し、腹側胴回り部と、背側胴回り部と、前記前後方向において前記腹側胴回り部と前記背側胴回り部との間の股下部と、前記腹側胴回り部の前記左右方向における両側に配置された一対のファスニングタブと、ペットの尻尾を通すための尻尾挿入部と、を有し、前記股下部の前記左右方向における両側に、前記腹側胴回り部及び前記背側胴回り部よりも前記左右方向における幅が狭くなった一対の脚繰り部が設けられており、前記前後方向の中央位置よりも腹側に、前記脚繰り部の周縁から前記左右方向の内側へ向かって、前記股下部を前記厚さ方向に貫通する貫通部を有するペット用おむつであって、伸長状態において、前記腹側胴回り部の前記左右方向の側縁の背側端

と、前記背側胴回り部の前記左右方向の側縁の腹側端とを結んだ直線と、前記脚繰り部の周縁とによって囲まれる部分の面積のうち、前記前後方向の中央位置よりも腹側における面積は、前記前後方向の中央位置よりも背側における面積よりも大きい、ことを特徴とするペット用おむつ。

[0010] 態様1のペット用おむつによれば、脚回り開口が腹側において広く形成されるため、装着時にペットの両脚の間で、脚繰り部の腹側の周縁がペットの脚の付け根に干渉し難くなり、装着性が向上する。また、貫通部が設けられていることにより、腹側脚繰り部の周縁がペットの脚の付け根に食い込んでしまうことを抑制しやすい。一方、脚回り開口の背側が腹側と比較して狭くなるため、脚回り開口は全体として過度に広がらず、装着時に位置ずれが生じ難い。したがって、良好な装着性と、位置ずれの生じ難さを両立することができる。

[0011] (態様2)

前記前後方向の中央位置よりも腹側における前記脚繰り部の周縁は、前記前後方向の中央位置よりも背側における前記脚繰り部の周縁よりも前記左右方向の内側に括れている、態様1に記載のペット用おむつ。

[0012] 態様2のペット用おむつによれば、腹側脚繰り部の周縁が内側に括れた形状を有していることにより、ペットに装着させた際に、ペットの脚の付け根により干渉し難くなる。したがって、腹側脚繰り部の周縁が脚の付け根に食い込んでしまうことが抑制され、装着性をより向上させることができる。

[0013] (態様3)

伸長且つ展開状態において、互いに交差する前後方向と左右方向と厚さ方向とを有し、腹側胴回り部と、背側胴回り部と、前記前後方向において前記腹側胴回り部と前記背側胴回り部との間の股下部と、前記腹側胴回り部の前記左右方向における両側に配置された一対のファスニングタブと、ペットの尻尾を通すための尻尾挿入部と、を有し、前記股下部の前記左右方向における両側に、前記腹側胴回り部及び前記背側胴回り部よりも前記左右方向における幅が狭くなった一対の脚繰り部が設けられており、前記前後方向の中央

位置よりも腹側に、前記脚繰り部の周縁から前記左右方向の内側へ向かって、前記股下部を前記厚さ方向に貫通する貫通部を有するペット用おむつであって、伸長状態において、前記腹側胴回り部の前記左右方向の側縁の背側端と、前記背側胴回り部の前記左右方向の側縁の腹側端とを結んだ直線と、前記脚繰り部の周縁とによって囲まれる部分の面積のうち、前記前後方向の中央位置よりも背側における面積は、前記前後方向の中央位置よりも腹側における面積よりも大きい、ことを特徴とするペット用おむつ。

[0014] 態様3のペット用おむつによれば、装着時において脚回り開口が背側において広がるため、ペットの背側における位置調整が容易であり、フィット性を向上させやすい。一方、脚回り開口の腹側が過度に大きくないため、位置調整の際にペットの両脚の間で吸収体の位置ずれ等を生じ難くすることができる。そして、腹側脚繰り部の周縁がペットの脚に干渉する場合には貫通部（ミシン目）を破いて調整することで、干渉を抑制することができる。したがって、良好な装着性と、位置ずれの生じ難さを両立することができる。

[0015] （態様4）

前記前後方向の中央位置よりも背側における脚繰り部の周縁は、前記前後方向の中央位置よりも腹側における脚繰り部の周縁よりも前記左右方向の内側に括れている、態様3に記載のペット用おむつ。

[0016] 態様4のペット用おむつによれば、ペットの尻尾を尻尾挿入部に通した後で、背側胴回り部の左右方向における位置を調整する際に、背側脚繰り部の周縁がペットの脚に干渉し難くなるため、位置調整を行いやすくなる。これにより、背側胴回り部にファスニングタブを係合させやすくなる等、ペット用おむつの装着性をより向上させることができる。

[0017] （態様5）

前記貫通部は、前記股下部を前記厚さ方向に貫通する複数の溝が、前記脚繰り部の周縁から前記左右方向の内側へ向かって断続的に並んだミシン目である、態様1～4の何れかに記載のペット用おむつ。

[0018] 態様5のペット用おむつによれば、装着時に、腹側脚繰り部の周縁がペッ

トの脚の付け根に干渉してしまうような場合であっても、ミシン目を破いて腹側脚繰り部に切り込みを形成することで、干渉を生じ難くすることができる。これにより、装着時のフィット性をより高めることができる。そして、ミシン目を破る量を変更することで、ペットの体型に合わせてフィット性を自在に調整することができる。

[0019] (態様6)

液吸収性の吸収体と、前記吸収体よりも肌側に配置されたトップシートと、前記吸収体を覆うコアラップシートと、を有し、前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目が、前記トップシート及び前記コアラップシートの少なくとも何れかと重複していない、態様1～5の何れかに記載のペット用おむつ。

[0020] 態様6のペット用おむつによれば、トップシートやコアラップシートがミシン目（貫通部）によって厚さ方向に貫通されていないため、装着時に尿等の排泄物がミシン目を伝って厚さ方向の肌側から非肌側へ漏れ出すことが抑制される。

[0021] (態様7)

液吸収性の吸収体と、前記吸収体よりも非肌側に配置された防漏シートと、を有し、前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目の前記左右方向における内側の端部が、前記防漏シートと重複する部分を有している、態様1～6の何れかに記載のペット用おむつ。

[0022] 態様7のペット用おむつによれば、ミシン目を破り始める際に起点となる左右方向外側端部（先端部）に積層されているシート部材の枚数よりも、ミシン目を最大限に破った場合の終点となる左右方向内側端部（終端部）に積層されているシート部材の枚数が多くなる。したがって、ユーザーは、ミシン目の先端部から簡単に破り始めることが可能であり、また、ミシン目の終端部を超えておむつ（吸収体等）を余計に破いてしまうことが抑制される。

[0023] (態様8)

前記左右方向の両側に、前記前後方向に伸縮する脚回り弾性部材を有し、

前記厚さ方向に見たときに、前記脚回り弾性部材またはその延長線と、前記ミシン目とが交差していない、態様１～７の何れかに記載のペット用おむつ。

[0024] 態様８のペット用おむつによれば、ミシン目に対して脚回り弾性部材の収縮力が作用し難く、脚回り弾性部材によってミシン目が両側に引っ張られてしまうことが抑制される。したがって、ミシン目が自然に破れてしまうことが抑制され、良好な装着性を維持しやすくすることができる。

[0025] (態様９)

前記左右方向の両側に、前記前後方向に伸縮する脚回り弾性部材を有し、前記厚さ方向に見たときに、前記脚回り弾性部材またはその延長線と、前記ミシン目とが交差している、態様１～８の何れかに記載のペット用おむつ。

[0026] 態様９のペット用おむつによれば、脚回り弾性部材がミシン目と交差した点において切断され、ミシン目の両側に向かって収縮することとで、ミシン目を開く（破る）方向に力が作用しやすくなる。これにより、弱い力でもミシン目を破りやすくなり、ペット用おむつの装着性の調整を行いやすくなることができる。

[0027] (態様１０)

前記左右方向において、前記ミシン目の最も内側の端よりも内側に、前記ミシン目と交差する方向に配置された溝を有する、態様１～９の何れかに記載のペット用おむつ。

[0028] 態様１０のペット用おむつによれば、ユーザーがミシン目を先端側から終端側に向かって破る際に、誤ってミシン目の終端部を超えて破ろうとしてしまった場合であっても、交差溝部が設けられていることにより、該交差溝部によってミシン目を破る力がせき止められて、ミシン目が過度に破れてしまうことを抑制することができる。

(態様１１)

前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目を構成する複数の前記溝のうち、前記左右方向の最も外側に位置する外側端部溝と、前記脚繰り部の周縁と

が交差している、態様１～１０の何れかに記載のペット用おむつ。

- [0029] 態様１１のペット用おむつによれば、ユーザーがミシン目を破る際に、脚繰り部の周縁において破り始めの起点となる部分を弱い力で破り始めることができるため、安全且つ簡単にミシン目を破る動作を行うことができる。また、破り始める際に余計な力がかかり難くなるため、誤ってミシン目以外の部分が破れてしまうこと等を抑制できる。

(態様１２)

前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目を構成する複数の前記溝のうち、前記左右方向の最も外側に位置する外側端部溝と、前記脚繰り部の周縁とが交差していない、態様１～１１の何れかに記載のペット用おむつ。

- [0030] 態様１２のペット用おむつによれば、破り始めの起点となる部分が脚繰り部の周縁の内側に離間して配置されているため、ミシン目の破り始める際に要する力が大きくなる。これにより、ミシン目が自然に破れてしまったり、ユーザーが意図していない破れが生じたりすることを抑制できる。

(態様１３)

伸長且つ展開状態において前記前後方向に４等分したときの腹側から３番目の領域と、前記尻尾挿入部とが重複する部分を有している、態様１～１２の何れかに記載のペット用おむつ。

- [0031] 態様１３のペット用おむつによれば、尻尾挿入部の前後方向における位置を規定することで、装着時にペットの尻尾の位置を基準として、腹側胴回り部、背側胴回り部、及び股下部の位置を容易に調節しやすくなる。これにより、ペットの身体の適正な位置にペット用おむつの各部位を正しく当接させやすくなる。

(態様１４)

前記尻尾挿入部の前記前後方向における背側の端が、前記腹側から３番目の領域に位置している、態様１～１３の何れかに記載のペット用おむつ。

- [0032] 態様１４のペット用おむつによれば、装着時に尻尾挿入部よりも背側の領域が過度に狭くなりすぎず、ペットの背部が十分に覆われなくなったり、排

排泄物の後ろ漏れが生じたりすることを抑制しやすくなる。

[0033] ===第1実施形態===

＜おむつ1の基本的構成＞

犬や猫等のペットに装着させるペット用おむつの一例として、ペット用のテープ型使い捨ておむつ1（以下、「おむつ1」とも呼ぶ）の基本的な構成について説明する。図1は、展開且つ伸長状態であるおむつ1の平面図である。図2Aは、図1のA-A矢視について表す概略断面図である。図2Bは、図1のB-B矢視について表す概略断面図である。なお、図1における伸長状態とは、製品（おむつ1）を皺なく伸長させた状態、具体的には、おむつ1を構成する各部材（例えば、後述するバックシート24等）の寸法がその部材単体の寸法と一致又はそれに近い長さになるまで伸長した状態のことを言う。

[0034] 図1に示すように、各方向を定義する。すなわち、おむつ1の長手方向に沿った方向を「前後方向」とし、前後方向と直交し、おむつ1の幅方向に沿った方向を「左右方向」とする。前後方向の「前側」は、おむつ1の装着時に装着対象者（ここではペット）の腹側に位置する側であり、以下「腹側」とも呼ぶ。前後方向の「後側」は、おむつ1の装着時に装着対象者（ペット）の背側に位置する側であり、以下「背側」とも呼ぶ。また、図2A及び図2Bに示すように、前後方向及び左右方向と直交する方向を「厚さ方向」とし、装着対象者（ペット）の肌と当接する側を「肌側」とし、その反対側を「非肌側」とする。

[0035] おむつ1は、所謂オープンタイプのテープ型使い捨ておむつであり、吸収体10と、トップシート22と、防漏シート23と、バックシート24と、サイドシート25と、貫通部40と、ファスニングタブ50と、ターゲット領域60と、を有する。

[0036] 吸収体10は、排泄物等の液体を吸収して保持する吸収性コア11（例えば粉砕パルプや高吸収ポリマーで構成される）と、吸収性コア11を被覆する液透過性のコアラップシート12（例えばティッシュシートやスパンボン

ド不織布）とを有する。本実施形態において吸収性コア 11（吸収体 10）は、長手方向の中央部がくびれた平面視略砂時計型の形状をなし、その長手方向をおむつ 1 の前後方向に沿わせつつ左右方向の中央に配置されている。吸収性コア 11 にこのようなくびれが設けられることにより、おむつ 1 の装着時において、ペットが脚を動かしやすくなる。但し、吸収体 10 の形状は必ずしも図 1 に示されるような砂時計型である必要なく、例えば、長方形型等であっても良い。

[0037] トップシート 22 は、吸収体 10 の肌側に配置される液透過性のシート部材であり、例えば、エアスルー不織布やスパンボンド不織布等によって形成される。また、トップシート 22 の肌側且つ左右方向両側には、左右方向の外側に張り出した一对のサイドシート 25、25 が接合されている。サイドシート 25 は、左右方向における内側端部が外側に折り返されており、当該折り返された部分には、糸ゴム等の防漏壁弾性部材 16 が前後方向に伸長した状態で挟み込まれ、接合されている（図 2 参照）。おむつ 1 をペットに装着させる際には、該防漏壁弾性部材 16 が発現する伸縮性に基づいてサイドシート 25 の左右方向内側端部が装着者（ペット）の肌側に起立し、所謂防漏壁を形成して、尿等の横漏れを抑制する。

[0038] 防漏シート 23 は、吸収体 10 の非肌側に配置された液不透過性の部材であり、例えば樹脂製のフィルム等が用いられる。バックシート 24 は、防漏シート 23 よりも非肌側に配置され、おむつ 1 の最も非肌側の外装を構成する部材（外装シート）であり、例えば不織布によって構成される。

[0039] また、吸収体 10 よりも左右方向の外側には、糸ゴム等からなる一对の脚回り弾性部材 15、15 が前後方向に伸長した状態で挟み込まれ、接合されている。当該脚回り弾性部材 15 が前後方向に沿って伸縮性を発現することにより、おむつ 1 の装着時に脚回り開口 LH（後述する図 3 参照）がペットの脚回りに沿ってフィットしやすくなり、装着性が向上すると共に、尿等の排泄物の横漏れが抑制される。

[0040] これらの部材が厚さ方向に積層され、積層された部材同士の一部がホット

メルト接着剤等の接着剤によって適直接合されることによって、おむつ 1 が形成される。

[0041] 図 1 に示されるように、展開且つ伸長状態のおむつ 1 は、全体として前後方向の腹側及び背側において左右方向の幅が広く、前後方向の中央部において左右方向の幅が狭くなるように形成されている。以下、前後方向の腹側において左右方向の幅が最も広くなる部分を腹側胴回り部 2 とし、前後方向の背側において左右方向の幅が最も広くなる部分を背側胴回り部 3 とする。図 1 では、前後方向の腹側において左右方向の幅 W 1 で表される矩形状の部分が腹側胴回り部 2 となる。すなわち、腹側胴回り部 2 は、左右方向の両側で前後方向に沿った側縁と、一对の側縁の前端同士を結ぶ直線と、一对の側縁の後端同士を結ぶ直線とによって囲まれた部分である。同様に、図 1 で、前後方向の背側において左右方向の幅 W 1 で表される矩形状の部分が背側胴回り部 3 となる。

[0042] そして、前後方向において、腹側胴回り部 2 と背側胴回り部 3 との間の部分を股下部 4 とする。股下部 4 では、左右方向における幅が腹側胴回り部 2 及び背側胴回り部 3 の左右方向における幅 W 1 よりも狭くなっている。具体的に、股下部 4 は、左右方向における両側部が切り欠かれており、その周縁が、前後方向の外側（腹側及び背側）から中心側に向かって左右方向の外側から内側に括れた形状を有している。以下、股下部 4 の周縁を構成する部分を脚繰り部 4 l h とする。この脚繰り部 4 l h は、おむつ 1 をペットに装着させた際に、脚回り開口 L H を形成する部分である（後述する図 3 参照）。以下では、脚繰り部 4 l h のうち、前後方向において中央位置 C L よりも腹側（前側）の部分を腹側脚繰り部 4 l h f と呼び、前後方向において中央位置 C L よりも背側（後側）の部分を背側脚繰り部 4 l h b と呼ぶ。

[0043] おむつ 1 の股下部 4 のうち、前後方向における中央位置 C L よりも腹側には、該股下部 4 を記厚さ方向に貫通する一对の貫通部 4 0 が設けられている。図 1 では、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁から左右方向の内側且つ前後方向の腹側に向かって延びる、一对の貫通部 4 0、4 0 が設けられている。貫通

部４０の詳細については後で説明する。

[0044] また、おむつ１の腹側胴回り部２には、図１及び図２に示されるように、サイドシート２５及びバックシート２４の左右方向における両側端から外側に延出する一対のファスニングタブ５０、５０が設けられている。ファスニングタブ５０はテープ基材５１と、係止部５２とを有している。テープ基材５１は、例えば不織布等からなる略矩形状のシート部材であり、左右方向における一方側の端部がサイドシート２５やバックシート２４に固定され、左右方向における他方側の端部がサイドシート２５及びバックシート２４の両側から外側に延出している。係止部５２は、係止用突起（不図示のフック）を複数備えた、所謂面ファスナーであり、テープ基材５１の厚さ方向における肌側の面に設けられている。

[0045] 一方、おむつ１の背側胴回り部３には、バックシート２４の非肌側面にターゲット領域６０が設けられている。ターゲット領域６０は、係止部５２と係合可能な領域であり、例えば、不織布の表面の繊維をループ状に加工して係止部５２の係止用突起（フック）を係合させやすくした部材を設けることによって形成される。また、ターゲット領域６０とバックシート２４とを異なる部材とするのではなく、背側胴回り部３においてバックシート２４の一部の領域を加工することによってターゲット領域６０が形成されるのであっても良い。

[0046] おむつ１をペットに装着させる際には、背側胴回り部３に設けられたターゲット領域６０に腹側胴回り部２に設けられた一対のファスニングタブ５０、５０（係止部５２、５２）をそれぞれ係止させる。これにより、胴回り開口ＢＨ、及び、一対の脚回り開口ＬＨが形成される（図３Ａ及び図３Ｂ参照）。おむつ１の装着時の具体的動作、及び、胴回り開口ＢＨ、脚回り開口ＬＨについては後で説明する。

[0047] また、おむつ１の股下部４の左右方向における中央部には、おむつ１を装着する際にペットの尻尾を通すための尻尾挿入部７０が設けられている。図１において、尻尾挿入部７０は、トップシート２２、防漏シート２３、及び

バックシート 24 を厚さ方向に貫通する切り込み 71 によって形成される。おむつ 1 に尻尾挿入部 70 が設けられていることにより、該おむつ 1 をペットに装着させる際に尻尾が邪魔にならず、おむつ 1 の着脱を楽に行うことができる。また、ペットの身体に対するおむつ 1 のフィット性を高くすると共に、位置ずれが生じることを抑制することができる。

[0048] <おむつ 1 の装着について>

図 3 A 及び図 3 B は、おむつ 1 をペットに装着させる際の動作について説明する図である。ペットにおむつ 1 を装着させる際には、先ず、図 3 A のように、尻尾挿入部 70 にペットの尻尾を通して背側胴回り部 3 をペットの背中側に当てがいつつ、おむつ 1 を前後方向に二つ折りにする。この状態において、おむつ 1 の腹側胴回り部 2 はペットの腹側に配置され、吸収体 10 もペットの腹側（すなわちペットの排泄器官がある側）に配置される。尻尾挿入部 70 を基準とすることで、ペットの排泄器官の位置に吸収体 10 を正しく配置することができる。

[0049] 次に、腹側胴回り部 2 に設けられている一对のファスニングタブ 50 を左右方向の両側に引っ張り上げながら、係止部 52 の係止用突起を、背側胴回り部 3 に設けられているターゲット領域 60 に引っかけて係止させる。これにより、腹側胴回り部 2 と背側胴回り部 3 とが環状に連結され、図 3 B に示されるような胴回り開口 B H が形成される。また、股下部 4 の左右方向両側の脚繰り部 41 h、41 h によって、一对の脚回り開口 L H、L H が形成される。

[0050] おむつ 1 の装着時には、脚回り開口 L H を形成している脚繰り部 41 h のうち、前後方向腹側の腹側脚繰り部 41 h f が、ペットの両脚（後脚）の間で脚の付け根部分に当接した状態となる（図 3 B 参照）。そのため、腹側脚繰り部 41 h f の周縁がペットの後脚の付け根に干渉してしまう場合がある。例えば、胴回りにおけるフィット性を高めようとして、ファスニングタブ 50 を左右方向の両側に強く引っ張ると、腹側脚繰り部 41 h f の周縁がペットの脚の付け根に食い込んでしまい、装着性が悪化したり肌トラブルの原

因となったりするおそれがある。

[0051] そこで、本実施形態のおむつ1では、装着時における脚回り開口LHの形状を適当に調整することにより、良好な装着性を実現している。図4は、脚回り開口LHの形状について説明する図である。同図4は、図1と同様に展開且つ伸長状態のおむつ1について表している。図4において、股下部4の脚繰り部4lhよりも左右方向の外側において、斜線部で示されている領域が、おむつ1の装着時に脚回り開口LHを形成する領域である。すなわち、腹側胴回り部2の左右方向側縁の前後方向における背側の端2ebと、背側胴回り部3の左右方向側縁の前後方向における腹側の端3efとを結ぶ直線と、脚繰り部4lhの周縁とによって囲まれる部分によって、脚回り開口LHが形成される。

[0052] そしてこの脚回り開口LHを形成する斜線部で示される領域のうち、前後方向において中央位置CLよりも腹側の部分を腹側開口部A、前後方向において中央位置CLよりも背側の部分を背側開口部Bとする。第1実施形態のおむつ1では、腹側開口部Aの面積が背側開口部Bの面積よりも大きくなっている。腹側開口部Aの面積が大きいため、装着時において脚回り開口が腹側において広がる。したがって、ペットの両脚の間で、腹側脚繰り部4lhの周縁がペットの後脚の付け根に干渉し難くなり、装着性が向上する。一方、背側開口部Bの面積は腹側開口部Aと比較して小さいため、脚回り開口LHは全体として過度に広がらず、装着時に位置ずれが生じ難い。これにより、良好な装着性と、位置ずれの生じ難さを両立することができる。

[0053] さらに、第1実施形態のおむつ1では、腹側脚繰り部4lhの周縁が、背側脚繰り部4lhの周縁よりも左右方向の内側に括れるように、脚繰り部4lhが形成されている。図5は、図4の展開且つ伸長状態のおむつ1を、前後方向における中央位置CLにて二つ折りにした状態を表す図である。図5の様に腹側胴回り部2と背側胴回り部3とを重ね合わせた状態において、腹側脚繰り部4lhの周縁は、背側脚繰り部4lhの周縁よりも左右方向の内側に位置している。例えば、前後方向において中央位置CLから距

離 h 1 だけ離間した位置で、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁における点 P f は、背側脚繰り部 4 l h b の周縁における点 P b よりも、左右方向の内側に位置している。

[0054] このように、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁が内側に括れていることによって、図 3 B のようにおむつ 1 をペットに装着させた際に、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁がペットの脚の付け根により干渉し難くなる。したがって、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁が脚の付け根に食い込んでしまうことが抑制され、装着性をより向上させることができる。

[0055] また、おむつ 1 では、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁から左右方向の内側へ向かって延びる一对の貫通部 4 0、4 0 が設けられていることにより、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁がペットの脚の付け根に食い込んでしまうことを抑制しやすくなっている。図 6 は、貫通部 4 0 の詳細について説明する図である。同図 6 は、展開且つ伸長状態のおむつ 1 の腹側脚繰り部 4 l h f のうち、腹側胴回り部 2 に隣接する領域を拡大して表したものである。

[0056] 第 1 実施形態の貫通部 4 0 は、股下部 4 を厚さ方向に貫通する複数の溝 4 1、4 1 … が腹側脚繰り部 4 l h f の周縁から左右方向の内側へ向かって断続的に並んだ、所謂ミシン目である。このようなミシン目（貫通部 4 0）が設けられていることにより、ユーザー（ペットの飼い主等）は、股下部 4 の一部を当該ミシン目に沿って裂くことができる。すなわち、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁に切り込みを形成することができる。このような構成であれば、おむつ 1 の装着時に、ペットの体型によって腹側脚繰り部 4 l h f の周縁が脚の付け根に干渉してしまうような場合であっても、腹側脚繰り部 4 l h f に切り込みを形成することで、干渉を生じ難くすることができる。これにより、おむつ 1 装着時のフィット性をより高めることができる。そして、ミシン目を破る量（切り込みの長さ）を変更することで、ペットの体型に合わせてフィット性を自在に調整することができる。

[0057] なお、ミシン目（貫通部 4 0）は、股下部 4 から腹側胴回り部 2 まで達していても良い。すなわち、ミシン目（貫通部 4 0）が腹側胴回り部 2 の一部

を厚さ方向に貫通していても良い。

[0058] また、おむつ 1 を厚さ方向に見たときに、ミシン目（貫通部 40）が、吸収性コア 11 を覆うコアラップシート 12、及び、吸収体 10 よりも肌側に設けられたトップシート 22 の少なくとも何れかと重複していないことが好ましい。仮に、コアラップシート 12 やトップシート 22 と重複してミシン目（貫通部 40）が設けられていた場合、コアラップシート 12 やトップシート 22 が厚さ方向に貫通されることにより、おむつ 1 の装着時に尿等の排泄物が貫通部 40 を通過して肌側から非肌側に漏出しやすくなるおそれがある。

[0059] これに対して、おむつ 1 では図 6 に示されるように、左右方向において、ミシン目（貫通部 40）の内側端部（終端部とも呼ぶ）が、コアラップシート 12 及びトップシート 22 の外側端よりも外側に位置している。つまり、ミシン目（貫通部 40）は、コアラップシート 12 及びトップシート 22 の何れとも重複していない。したがって、おむつ 1 の装着時に尿等がミシン目を伝って厚さ方向の肌側から非肌側へ漏れ出すことが抑制される。

[0060] また、おむつ 1 を厚さ方向に見たときに、ミシン目（貫通部 40）の左右方向における内側端部は、防漏シート 23 と重複している。図 6 では、ミシン目（貫通部 40）の終端部が、防漏シート 23 と重複した位置に配置されている。この場合、ミシン目（貫通部 40）の終端部は、厚さ方向において、少なくともサイドシート 25 及び防漏シート 23 及びバックシート 24 の 3 枚のシート部材を貫通している。一方、ミシン目（貫通部 40）の左右方向における外側端部（先端部とも呼ぶ）は、防漏シート 23 と重複しておらず、サイドシート 25 及びバックシート 24 の 2 枚のシート部材を貫通している。

[0061] つまり、ミシン目を破り始める際に起点となる左右方向における外側端部（先端部）では 2 枚のシート部材が積層されており、ミシン目を最大限に破った場合の終点となる左右方向における内側端部（終端部）では 3 枚のシート部材が積層されている。このような構成であれば、ミシン目を破る際に、

破り始めとなる先端部付近では比較的弱い力で破ることが可能となり、破り終わりとなる終端部付近では、先端部よりも強い力が必要となる。これにより、ユーザーは、ミシン目の先端部から簡単に破り始めることが可能であり、また、ミシン目の終端部を超えておむつ 1（吸収体 10 等）を余計に破いてしまうことが抑制される。

[0062] また、おむつ 1 を厚さ方向に見たときに、ミシン目（貫通部 40）は、脚回り弾性部材 15 及びその延長線と重複していない。ミシン目（貫通部 40）は、おむつ 1 の製造工程において脚回り弾性部材 15 を挟み込んだ状態でサイドシート 25 とバックシート 24 とを接合した後で、所定の Cutter 等を用いて複数の溝 41 を形成することによって設けられる。したがって、ミシン目と脚回り弾性部材 15 とが重複していた場合、溝 41 を形成する過程で脚回り弾性部材 15 が切断されてしまう可能性が高い。そして、仮に、脚回り弾性部材 15 がミシン目によって切断されていた場合、ミシン目の両側に脚回り弾性部材 15 の収縮力（脚回り弾性部材 15 が切断された箇所から切断されていない側に向かって収縮する力）が作用することになる。すなわち、ミシン目と交差する方向に該ミシン目が引っ張られることによって、ミシン目が自然に破れやすくなるおそれがある。同様に、ミシン目（貫通部 40）が、脚回り弾性部材 15 の延長線と交差している場合にも、脚回り弾性部材 15 の収縮力が作用して、ミシン目が自然に破れやすくなるおそれがある。

[0063] これに対して、第 1 実施形態のおむつ 1 では、図 6 に示されるように、ミシン目（貫通部 40）が脚回り弾性部材 15 及びその延長線と重複していないため、ミシン目（貫通部 40）に対して脚回り弾性部材 15 の収縮力が作用し難い。すなわち、脚回り弾性部材 15 によってミシン目が両側（ミシン目と交差する方向）に引っ張られてしまうことが抑制される。これにより、ミシン目が自然に破れてしまうことが抑制され、おむつ 1 の良好な装着性を維持しやすくなることができる。

[0064] 一方、おむつ 1 を厚さ方向に見たときに、ミシン目（貫通部 40）と、脚

回り弾性部材 15 及びその延長線とが重複する構成としても良い。図 7 は、ミシン目（貫通部 40）と脚回り弾性部材 15 とが重複する場合について表す図である。図 7 では、脚回り弾性部材 15 がミシン目と交差した点において切断され、ミシン目よりも腹側に位置する腹側弾性部材 15 f と、ミシン目よりも背側に位置する背側弾性部材 15 f b とに分割されている。この場合、腹側弾性部材 15 f と背側弾性部材 15 f b とがそれぞれ収縮して、ミシン目を開く（破る）方向に力が作用する。例えば、おむつ 1 を構成しているシート部材（サイドシート 25 やバックシート 24 等）が厚く、ミシン目を破るために大きな力が必要となる場合等には、ミシン目の両側に腹側弾性部材 15 f 及び背側弾性部材 15 f b による収縮力が作用するようにしておくことで、弱い力でもミシン目を破りやすくすることができる。これにより、おむつ 1 の装着性の調整を行いやすくすることができる。

[0065] また、ミシン目の終端部側に、ミシン目が過度に破れてしまうことを抑制するための破れ抑制機構を設けておく方が良い。図 8 A 及び図 8 B は、ミシン目（貫通部 40）破れ抑制機構について説明する図である。図 8 A では、左右方向において、ミシン目の最も内側の端よりも内側に、ミシン目と交差する方向に配置された縦溝 42 が設けられている。すなわち、ミシン目を構成している複数の溝 41、41…のうち、左右方向の最も内側（終端側）に位置する内側端部溝 41 i よりもさらに内側に、内側端部溝 41 i と交差する方向に延びる縦溝 42 が配置されている。例えば、ユーザーがミシン目を先端側から終端側に向かって破る動作を行う際に、誤ってミシン目の終端部（内側端部溝 41 i）を超えて破ろうとしてしまった場合に、破る方向（ミシン目に沿った方向）と交差する縦溝 42（以下、「交差溝部」とも呼ぶ）が設けられていれば、当該縦溝 42 によってミシン目を破る力がせき止められて、ミシン目が過度に破れてしまうことが抑制される。

[0066] 図 8 B では、縦溝 42 に替えて、左右方向において、ミシン目の最も内側の端よりも内側に、C 型溝 43 が設けられている。C 型溝 43 は、ミシン目の内側端部溝 41 i よりもさらに内側に、内側端部溝 41 i と交差する部分

を有しており、縦溝 4 2 と同様に交差溝部として機能する。これにより、ミシン目を破る力が C 型溝 4 3 によってせき止められ、ミシン目が終端部（内側端部溝 4 1 i）を超えて破れてしまうことが抑制される。また、縦溝 4 2 や C 型溝 4 3 以外に、左右方向においてミシン目の最も内側の端よりも内側に、ミシン目と交差する交差溝部が設けられていても良い。このような交差溝部が破れ抑制機構として機能することで、おむつ 1 が過度に破れてしまうことが抑制される。

[0067] 図 9 A 及び図 9 B は、ミシン目（貫通部 4 0）と腹側脚繰り部 4 l h f の周縁との位置関係について説明する図である。図 9 A では、おむつ 1 を厚さ方向に見たときに、ミシン目（貫通部 4 0）を構成している複数の溝 4 1, 4 1 … のうち、左右方向の最も外側（先端側）に位置する外側端部溝 4 1 o と、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁とが交差している。外側端部溝 4 1 o は、ミシン目を破いて腹側脚繰り部 4 l h f の周縁に切れ目を形成する際に、破り始めの起点となる部分である。したがって、図 9 A のように外側端部溝 4 1 o が腹側脚繰り部 4 l h f の周縁と重複する構成であれば、ユーザーがミシン目を破いて腹側脚繰り部 4 l h f に切れ目を形成する際に、弱い力でミシン目を破り始めることが可能となり、安全且つ簡単にミシン目を破る動作を行うことができる。また、余計な力がかかり難いため、誤ってミシン目以外の部分が破れてしまうこと等を抑制できる。

[0068] 一方、図 9 B では、おむつ 1 を厚さ方向に見たときに、ミシン目の左右方向の最も外側（先端側）に位置する外側端部溝 4 1 o と、腹側脚繰り部 4 l h f の周縁とが交差してない。すなわち、外側端部溝 4 1 o が腹側脚繰り部 4 l h f の周縁よりも左右方向の内側に配置されている。破り始めの起点となる外側端部溝 4 1 o が腹側脚繰り部 4 l h f の周縁の内側に離間して配置されているため、図 9 A の場合と比較してミシン目の破り始める際に要する力が大きくなる。したがって、図 9 B のように外側端部溝 4 1 o が腹側脚繰り部 4 l h f の周縁と重複していない構成とすることにより、ミシン目が自然に破れてしまったり、ユーザーが意図していない破れが生じたりすること

を抑制しやすくなる。

[0069] (貫通部40の変形例)

おむつ1の貫通部40は上述したミシン目以外に、以下の様な構成としても良い。図10A及び図10Bは、貫通部40の変形例について表す図である。図10Aでは、一つの溝により貫通部40が構成されている。すなわち、腹側脚繰り部41hfの周縁から左右方向の内側且つ前後方向の腹側に向かって延びる切り込み45によって貫通部40が構成されている。腹側脚繰り部41hfの周縁部に予め切り込み45が設けられていることにより、ミシン目を破く手間をかけずに脚回り開口LHを広げることができる。

[0070] また、図10Bでは、或る程度広い面積を有する孔により貫通部40が構成されている。すなわち、腹側脚繰り部41hfの周縁を含む股下部4の所定の領域が厚さ方向にくり抜かれたくり抜き部46によって貫通部40が構成されている。腹側脚繰り部41hfの周縁部を含む一部の領域が予めくり抜かれていることにより、装着時に腹側脚繰り部41hfの周縁がペットの脚の付け根に食い込んでしまうことをより抑制しやすくなる。

[0071] なお、腹側脚繰り部41hfの周縁に図10Bのようなくり抜き部46が設けられている場合、当該くり抜き部46によってくり抜かれた部分の面積は、図4で説明した腹側開口部Aの面積には含まれないものとする。すなわち、腹側開口部Aの面積と背側開口部Bの面積とを比較する際には、くり抜き部46が形成されていない場合における側脚繰り部41hfの周縁（図10Bの点線で示される仮想線）に基づいて腹側開口部Aの面積が決定される。

[0072] <尻尾挿入部70の構成>

おむつ1において、装着時にペットの尻尾を通すための尻尾挿入部70は、股下部4のうち前後方向の中央位置CLよりも背側寄りに配置されている。具体的には、図1のように、展開且つ伸長状態のおむつ1の前後方向の長さをLとして、長さLを4等分したときに、腹側（前側）から3番目の領域（第3領域GA3とする）と重複するように尻尾挿入部70が配置される。

尻尾挿入部 70 の前後方向における位置を規定することで、おむつ 1 の装着時にペットの尻尾の位置を基準として、腹側胴回り部 2、背側胴回り部 3、及び股下部 4 の位置を容易に調節しやすくなる。これにより、ペットの身体の適正な位置におむつ 1 の各部位を正しく当接させやすくなる。例えば、ペットの排泄口に対する吸収体 10 の位置や、ペットの両脚に対する脚回り開口 LH の位置が適正に定められる。また、おむつ 1 を装着した状態において、尻尾挿入部 70 の位置が固定されるため、装着後におむつ 1 の位置ズレ等が生じ難くなる。

[0073] 図 11 は尻尾挿入部 70 配置について説明する図である。尻尾挿入部 70 は、おむつ 1 を前後方向に 4 等分したときの腹側（前側）から 3 番目の第 3 領域 GA3 と重複するように配置することを説明したが、尻尾挿入部 70（切り込み 71）の一部がおむつ 1 を前後方向に 4 等分したときの腹側（前側）から 2 番目の領域（第 2 領域 GA2 とする）と重複していても良い。図 11A では、尻尾挿入部 70 の前後方向における腹側端が第 2 領域 GA2 と重複するように配置されている。このような構成であっても、ペットに装着させる際のおむつ 1 の位置調整を容易に行うことができる。

[0074] なお、図 11A のように尻尾挿入部 70 の一部が第 2 領域 GA2 と重複する場合、尻尾挿入部 70 と吸収体 10（吸収性コア 11）とが重複する可能性がある。この場合、図 11A のように尻尾挿入部 70 と重複しないよう吸収性コア 11 の形状を変更すると良い。但し、吸収性コア 11 と重複して尻尾挿入部 70 が形成されるのであって良い。

[0075] 一方、尻尾挿入部 70 は、おむつ 1 を前後方向に 4 等分したときの腹側（前側）から 4 番目の領域（第 4 領域 GA4 とする）とは重複しないように配置される。図 11B は、尻尾挿入部 70 の前後方向の後側端が第 4 領域 GA4 と重複する場合について表している。図 11B の場合、尻尾挿入部 70 よりも背側の領域が狭くなり、おむつ 1 の装着時にペットの背部が十分に覆われ難く、排泄物の後ろ漏れの原因となるおそれがある。また、ペットの両脚に対する脚回り開口 LH の位置がずれやすく、装着性が悪化するおそれがある。

る。したがって、おむつ 1 では、尻尾挿入部 70 の前後方向の後側端が、第 4 領域 G A 4 ではなく第 3 領域 G A 3 と重複して配置されるようにしている（図 1 及び図 1 1 A 参照）。これにより、装着時にペットの背部が十分に覆われなくなったり、排泄物の後ろ漏れが生じたりすることを抑制しやすくなる。

[0076] また、尻尾挿入部 70 の構成は、以下のように変形しても良い。図 1 2 は、尻尾挿入部 70 の変形例について表す図である。図 1 2 A では、股下部 4 を厚さ方向に貫通する十字型の溝 72 によって尻尾挿入部 70 が形成されている。図 1 2 B では、略円形状や楕円形状に空いた穴 73 によって尻尾挿入部 70 が形成されている。このような溝 72 や穴 73 によって尻尾挿入部 70 が形成される場合であっても、切り込み 71 と同様に尻尾挿入部 70 の機能を実現することができる。

[0077] === 第 2 実施形態 ===

第 2 実施形態では、脚繰り部 4 l h の形状が第 1 実施形態のおむつ 1 とは異なるペット用おむつ 100（以下、おむつ 100 と呼ぶ）について説明する。図 1 3 は、展開且つ伸長状態のおむつ 100 を表す平面図である。第 2 実施形態のおむつ 100 において、脚繰り部 4 l h の形状以外の構成は第 1 実施形態のおむつ 1 とほぼ同様であるため、おむつ 100 の各部の構成については説明を省略する。

[0078] おむつ 100 において、股下部 4 の脚繰り部 4 l h よりも左右方向の外側において、図 1 3 の斜線部で示されている領域が、おむつ 1 の装着時に脚回り開口 L H を形成する領域である。すなわち、腹側胴回り部 2 の左右方向側縁の前後方向における背側の端 2 e b と、背側胴回り部 3 の左右方向側縁の前後方向における腹側の端 3 e f とを結ぶ直線と、脚繰り部 4 l h の周縁とによって囲まれる部分によって、脚回り開口 L H が形成される。

[0079] そして、前後方向において中央位置 C L よりも腹側の部分を腹側開口部 A、前後方向において中央位置 C L よりも背側の部分を背側開口部 B とすると、おむつ 100 では、背側開口部 B の面積が腹側開口部 A の面積よりも大き

くなっている。背側開口部Bの面積が大きいため、おむつ100をペットに装着させる際に、ペットの背側における位置調整が容易であり、フィット性を向上させやすい。一方、腹側開口部Aの面積が過度に大きくないため、位置調整の際にペットの両脚（後脚）の間で吸収体10の位置ずれを生じ難くすることができる。なお、腹側開口部Aの面積が小さいと、腹側脚繰り部41hfの周縁がペットの脚の付け根に干渉しやすくなるおそれがある。しかしながら、おむつ100の腹側脚繰り部41hfにはミシン目（貫通部40）が設けられており、腹側脚繰り部41hfの周縁がペットの脚に干渉する場合には当該ミシン目を破いて調整することで、干渉を抑制することができる。これにより、良好な装着性を備え、位置ずれが生じ難いペット用おむつを実現することができる。

[0080] 図14は、図13の展開且つ伸長状態のおむつ100を、前後方向における中央位置CLにて二つ折りにした状態を表す図である。第2実施形態のおむつ100では、図5の様に腹側胴回り部2と背側胴回り部3とを重ね合わせた状態において、腹側脚繰り部41hfの周縁は、背側脚繰り部41hbの周縁よりも左右方向の外側に位置している。例えば、前後方向において中央位置CLから距離h1だけ離間した位置で、腹側脚繰り部41hfの周縁における点Pfは、背側脚繰り部41hbの周縁における点Pbよりも、左右方向の外側に位置している。すなわち、第2実施形態のおむつ100では、背側脚繰り部41hbの周縁が、腹側脚繰り部41hfの周縁よりも左右方向の内側に括れるように、脚繰り部41hが形成されている。

[0081] 背側脚繰り部41hbの周縁が内側に括れていることによって、おむつ100をペットに装着させようとする際に背側胴回り部3の位置調整が容易になる。例えば、図3Aのようにペットの尻尾を尻尾挿入部70に通した後で、背側胴回り部3の左右方向における位置を調整する際に、背側脚繰り部41hbの周縁がペットの脚に干渉し難くなるため、位置調整を行いやすくなる。これにより、背側胴回り部3に設けられたターゲット領域60に対してファスニングタブ50を係合させやすくなり、おむつ100の装着性を向上

させることができる。

[0082] ===その他の実施の形態===

以上、本発明の実施形態について説明したが、上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。また、本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更や改良され得るとともに、本発明にはその等価物が含まれるのは言うまでもない。

符号の説明

[0083] 1 おむつ（第1実施形態、ペット用おむつ）、
2 腹側胴回り部、2 e b 端（左右方向の側縁の背側端）、
3 背側胴回り部、3 e f 端（左右方向の側縁の腹側端）、
4 股下部、4 l h 脚繰り部、4 l h f 腹側脚繰り部、4 l h b 背側脚繰り部、
1 0 吸収体、
1 1 吸収性コア、1 2 コアラップシート、
1 5 脚回り弾性部材、1 6 防漏壁弾性部材、
2 2 トップシート、2 3 防漏シート、2 4 バックシート、2 5 サイドシート、
4 0 貫通部、
4 1 溝、4 1 i 内側端部溝、4 1 o 外側端部溝、
4 2 縦溝、4 3 C型溝、
4 5 切り込み、4 6 くり抜き部、
5 0 ファスニングタブ、
5 1 テープ基材、5 2 係止部、
6 0 ターゲット領域、
7 0 尻尾挿入部、
7 1 切り込み、7 2 溝、7 3 穴、
1 0 0 おむつ（第2実施形態、ペット用おむつ）、
B H 胴回り開口、L H 脚回り開口

請求の範囲

- [請求項1] 伸長且つ展開状態において、互いに交差する前後方向と左右方向と厚さ方向とを有し、
- 腹側胴回り部と、背側胴回り部と、前記前後方向において前記腹側胴回り部と前記背側胴回り部との間の股下部と、
- 前記腹側胴回り部の前記左右方向における両側に配置された一対のファスニングタブと、
- ペットの尻尾を通すための尻尾挿入部と、
- を有し、
- 前記股下部の前記左右方向における両側に、前記腹側胴回り部及び前記背側胴回り部よりも前記左右方向における幅が狭くなった一対の脚繰り部が設けられており、
- 前記前後方向の中央位置よりも腹側に、前記脚繰り部の周縁から前記左右方向の内側へ向かって、前記股下部を前記厚さ方向に貫通する貫通部を有するペット用おむつであって、
- 伸長状態において、前記腹側胴回り部の前記左右方向の側縁の背側端と、前記背側胴回り部の前記左右方向の側縁の腹側端とを結んだ直線と、前記脚繰り部の周縁とによって囲まれる部分の面積のうち、前記前後方向の中央位置よりも腹側における面積は、前記前後方向の中央位置よりも背側における面積よりも大きい、ことを特徴とするペット用おむつ。
- [請求項2] 請求項1に記載のペット用おむつであって、
- 前記前後方向の中央位置よりも腹側における前記脚繰り部の周縁は、
- 前記前後方向の中央位置よりも背側における前記脚繰り部の周縁よりも前記左右方向の内側に括れている、ことを特徴とするペット用おむつ。
- [請求項3] 伸長且つ展開状態において、互いに交差する前後方向と左右方向と厚さ方向とを有し、

腹側胴回り部と、背側胴回り部と、前記前後方向において前記腹側胴回り部と前記背側胴回り部との間の股下部と、

前記腹側胴回り部の前記左右方向における両側に配置された一对のファスニングタブと、

ペットの尻尾を通すための尻尾挿入部と、

を有し、

前記股下部の前記左右方向における両側に、前記腹側胴回り部及び前記背側胴回り部よりも前記左右方向における幅が狭くなった一对の脚繰り部が設けられており、

前記前後方向の中央位置よりも腹側に、前記脚繰り部の周縁から前記左右方向の内側へ向かって、前記股下部を前記厚さ方向に貫通する貫通部を有するペット用おむつであって、

伸長状態において、前記腹側胴回り部の前記左右方向の側縁の背側端と、前記背側胴回り部の前記左右方向の側縁の腹側端とを結んだ直線と、前記脚繰り部の周縁とによって囲まれる部分の面積のうち、前記前後方向の中央位置よりも背側における面積は、前記前後方向の中央位置よりも腹側における面積よりも大きい、ことを特徴とするペット用おむつ。

[請求項4]

請求項3に記載のペット用おむつであって、

前記前後方向の中央位置よりも背側における脚繰り部の周縁は、

前記前後方向の中央位置よりも腹側における脚繰り部の周縁よりも前記左右方向の内側に括れている、ことを特徴とするペット用おむつ。

[請求項5]

請求項1～4の何れか1項に記載のペット用おむつであって、

前記貫通部は、前記股下部を前記厚さ方向に貫通する複数の溝が、前記脚繰り部の周縁から前記左右方向の内側へ向かって断続的に並んだミシン目である、ことを特徴とするペット用おむつ。

[請求項6]

請求項5に記載のペット用おむつであって、

液吸収性の吸収体と、

前記吸収体よりも肌側に配置されたトップシートと、前記吸収体を覆うコアラップシートと、を有し、

前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目が、前記トップシート及び前記コアラップシートの少なくとも何れかと重複していない、ことを特徴とするペット用おむつ。

[請求項7] 請求項5に記載のペット用おむつであって、

液吸収性の吸収体と、

前記吸収体よりも非肌側に配置された防漏シートと、を有し、

前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目の前記左右方向における内側の端部が、前記防漏シートと重複する部分を有している、ことを特徴とするペット用おむつ。

[請求項8] 請求項5に記載のペット用おむつであって、

前記左右方向の両側に、前記前後方向に伸縮する脚回り弾性部材を有し、

前記厚さ方向に見たときに、前記脚回り弾性部材またはその延長線と、前記ミシン目とが交差していない、ことを特徴とするペット用おむつ。

[請求項9] 請求項5に記載のペット用おむつであって、

前記左右方向の両側に、前記前後方向に伸縮する脚回り弾性部材を有し、

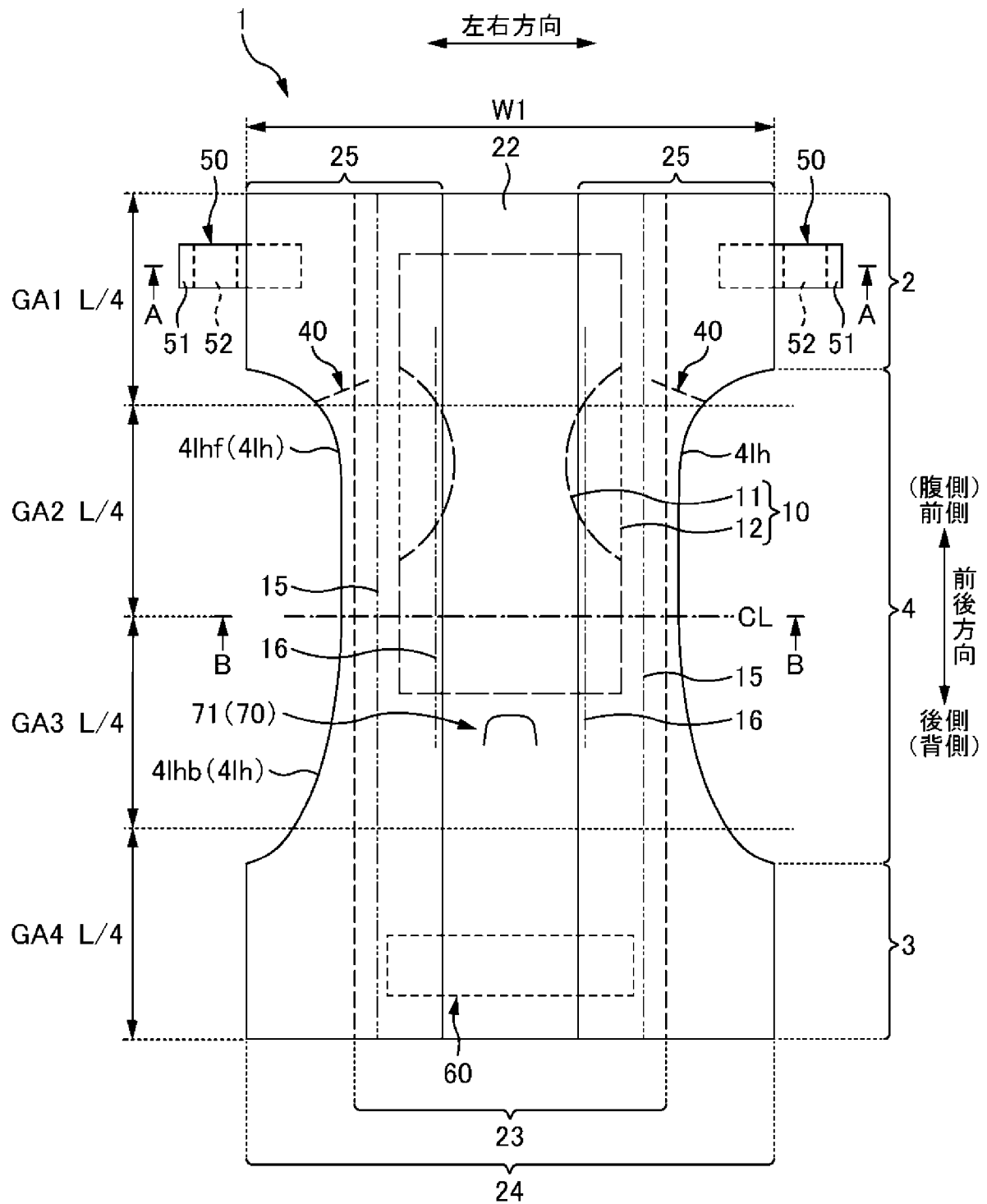
前記厚さ方向に見たときに、前記脚回り弾性部材またはその延長線と、前記ミシン目とが交差している、ことを特徴とするペット用おむつ。

[請求項10] 請求項5に記載のペット用おむつであって、

前記左右方向において、前記ミシン目の最も内側の端よりも内側に、前記ミシン目と交差する方向に配置された溝を有する、ことを特徴とするペット用おむつ。

- [請求項11] 請求項5に記載のペット用おむつであって、
前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目を構成する複数の前記溝のうち、前記左右方向の最も外側に位置する外側端部溝と、前記脚繰り部の周縁とが交差している、ことを特徴とするペット用おむつ。
- [請求項12] 請求項5に記載のペット用おむつであって、
前記厚さ方向に見たときに、前記ミシン目を構成する複数の前記溝のうち、前記左右方向の最も外側に位置する外側端部溝と、前記脚繰り部の周縁とが交差していない、ことを特徴とするペット用おむつ。
- [請求項13] 請求項1～4の何れか1項に記載のペット用おむつであって、
伸長且つ展開状態において前記前後方向に4等分したときの腹側から3番目の領域と、前記尻尾挿入部とが重複する部分を有している、ことを特徴とするペット用おむつ。
- [請求項14] 請求項13に記載のペット用おむつであって、
前記尻尾挿入部の前記前後方向における背側の端が、前記腹側から3番目の領域に位置している、ことを特徴とするペット用おむつ。

[図1]



[図2]

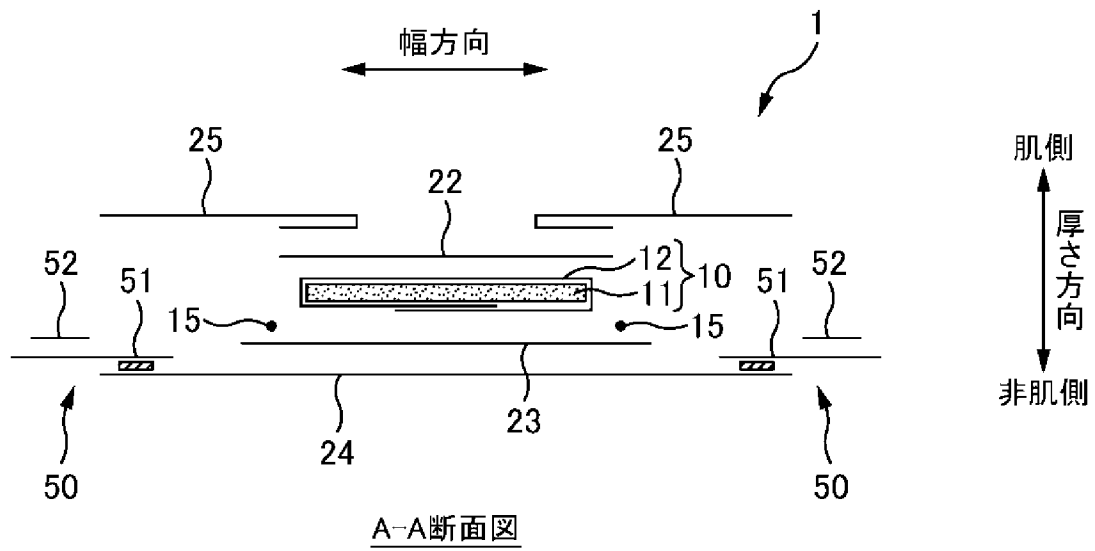
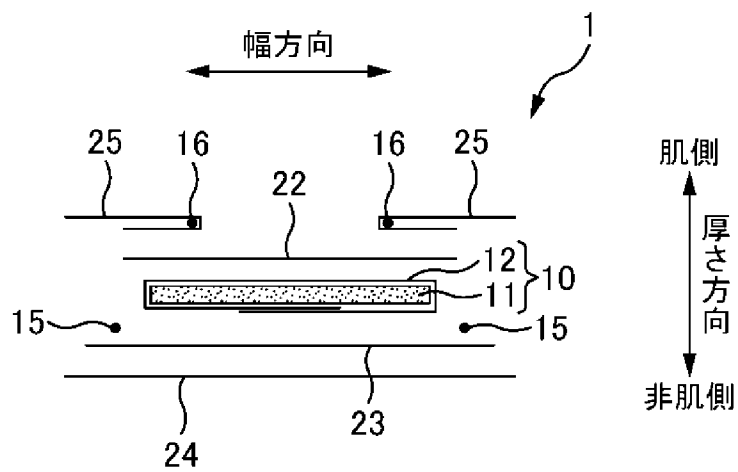


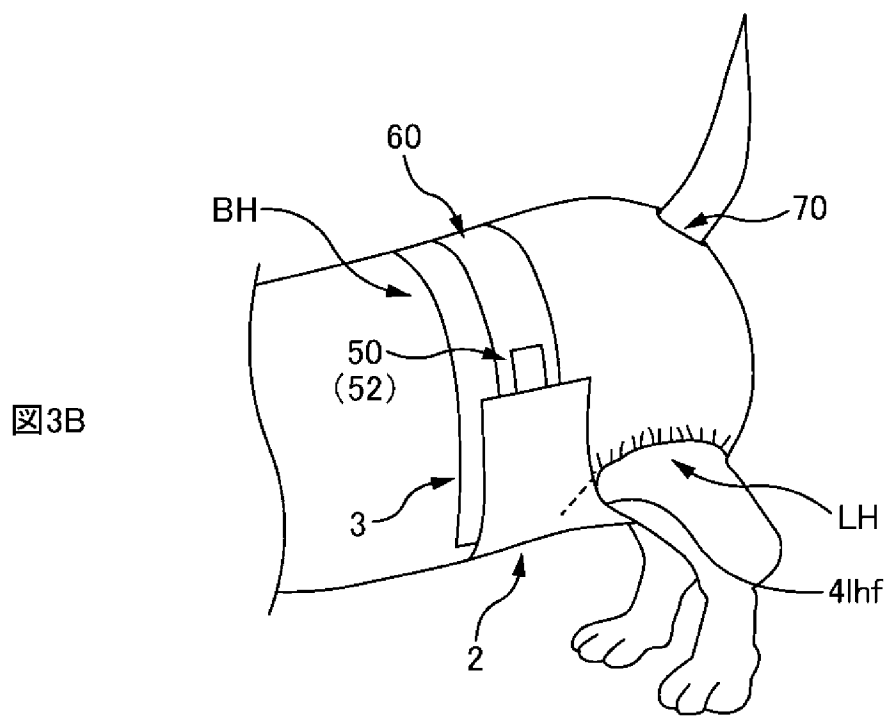
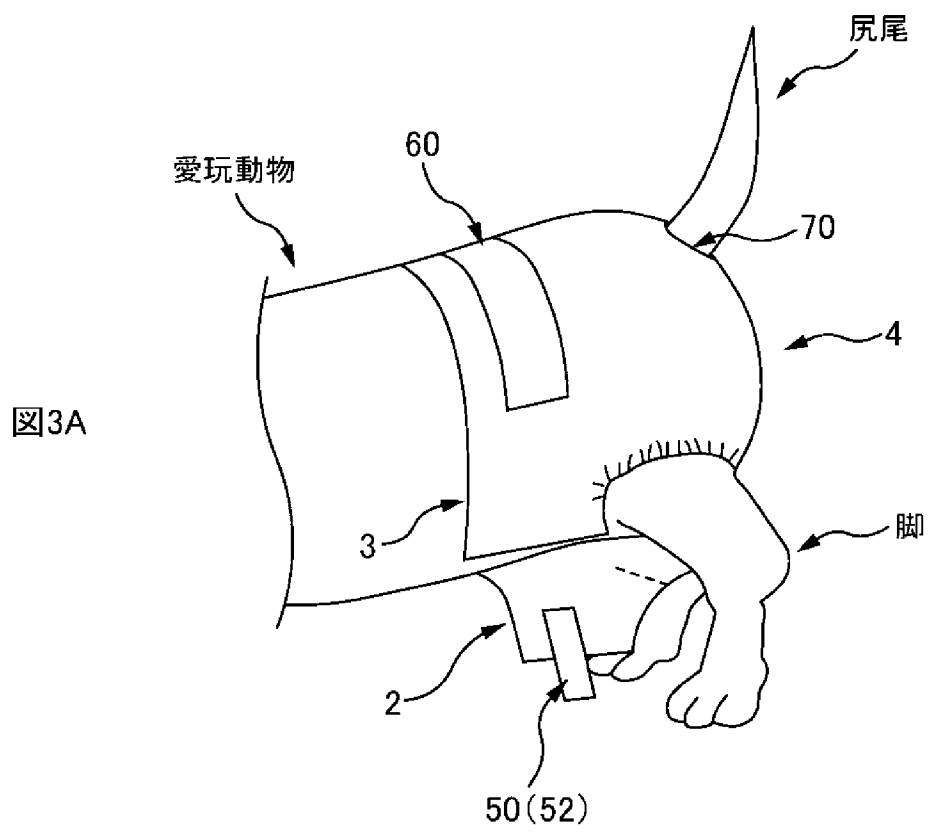
図2A



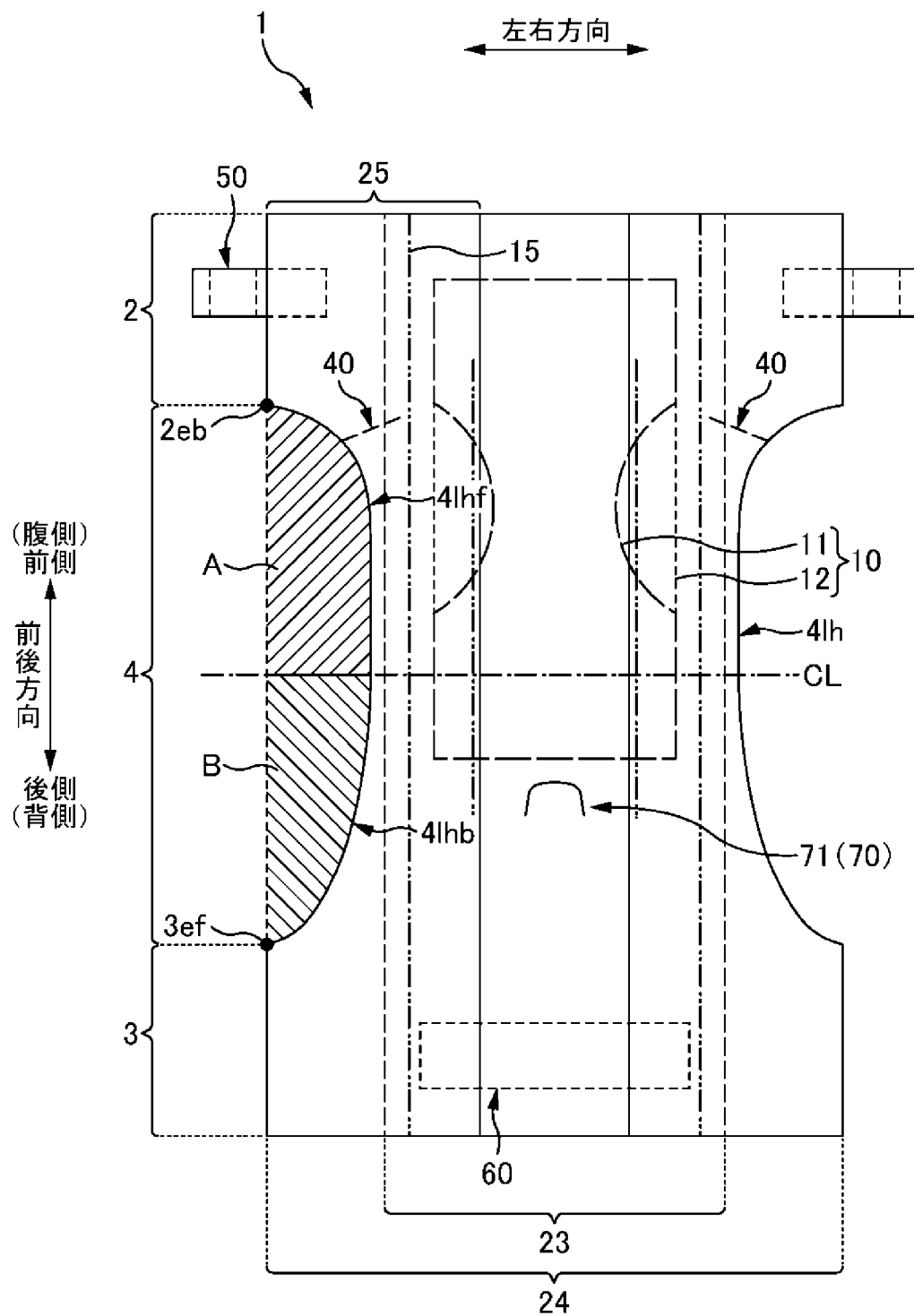
B-B断面図

図2B

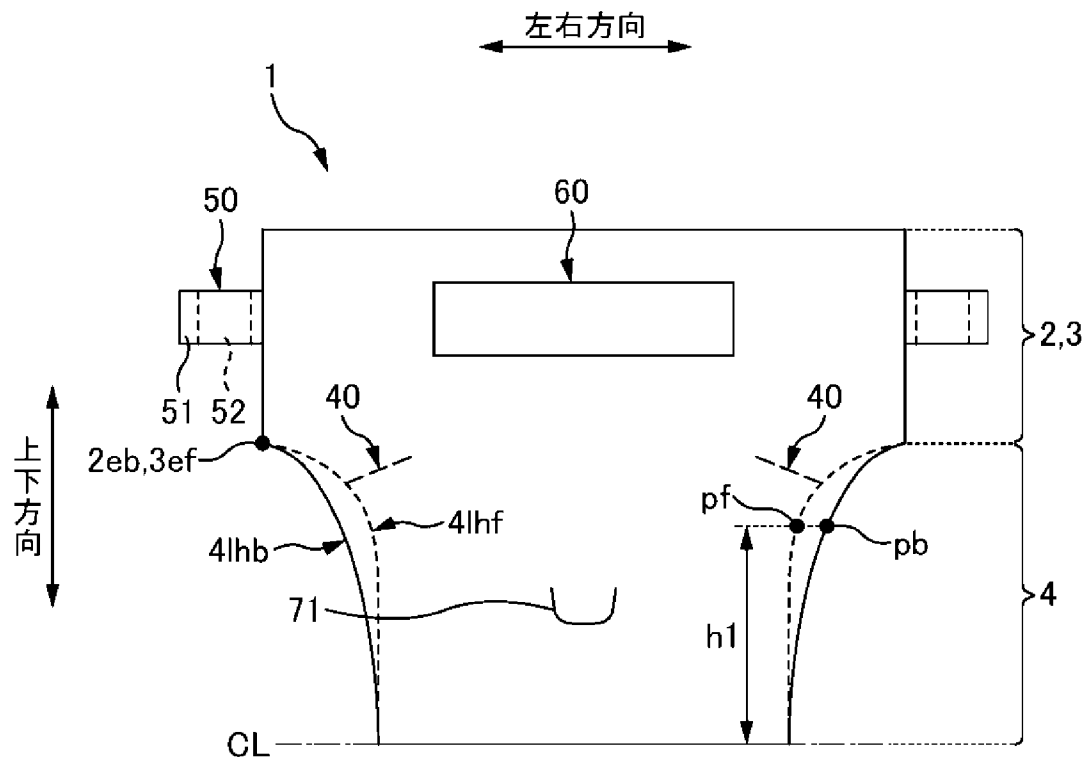
[図3]



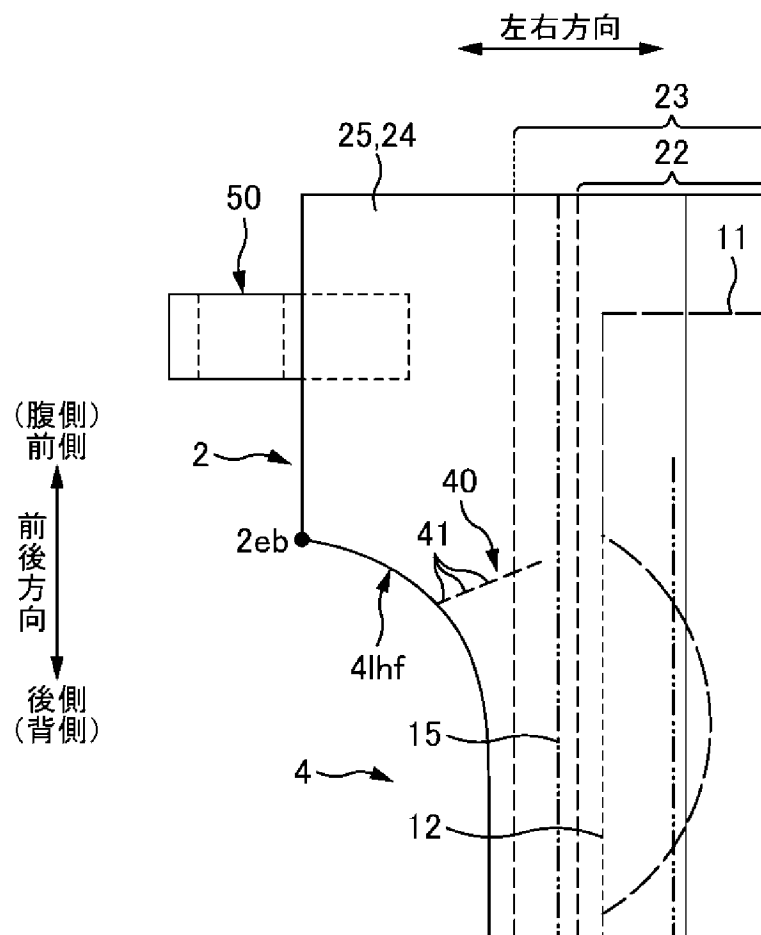
[図4]



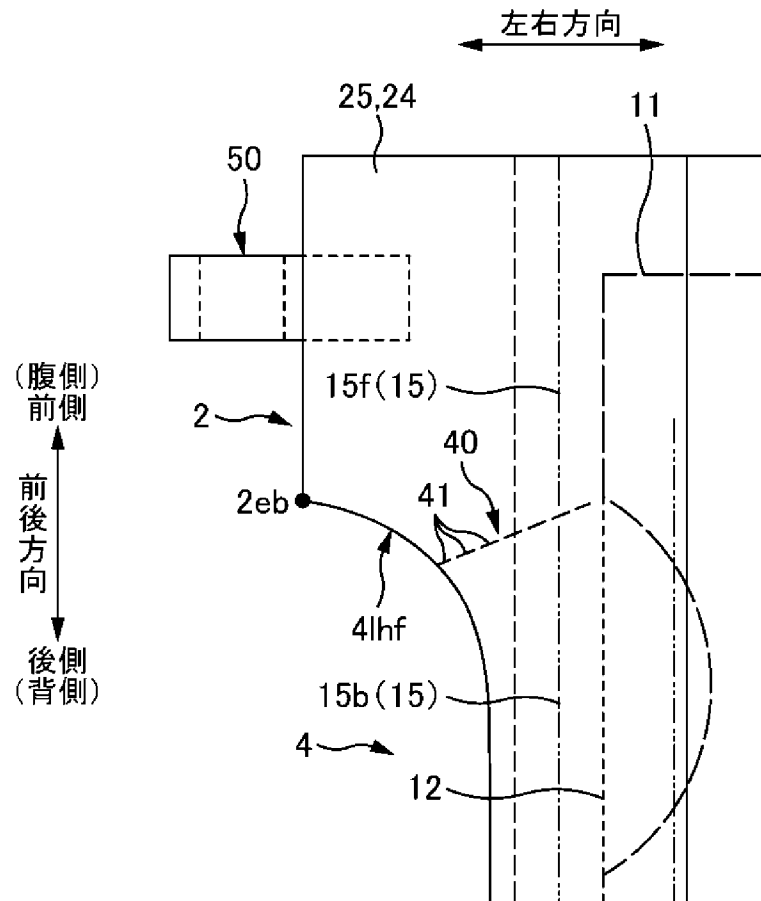
[図5]



[図6]



[図7]



[図8]

図8A

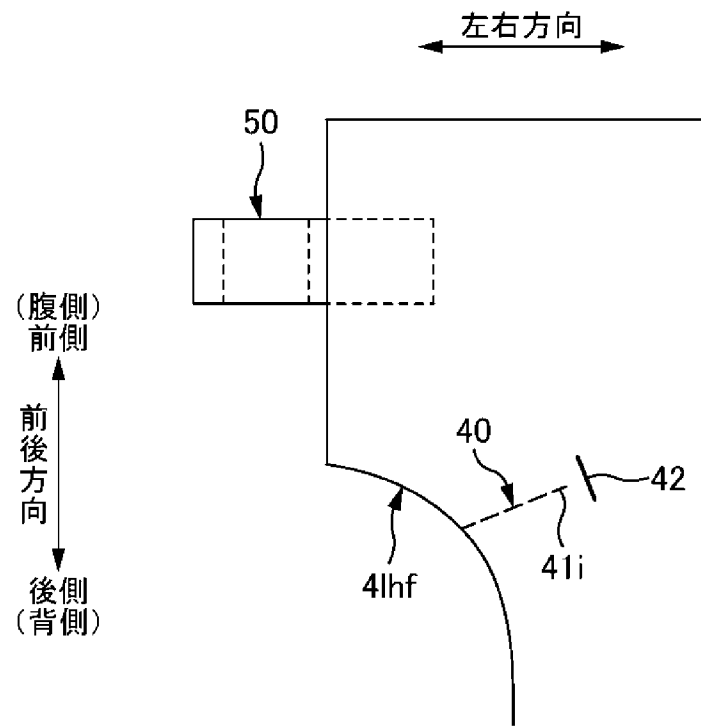
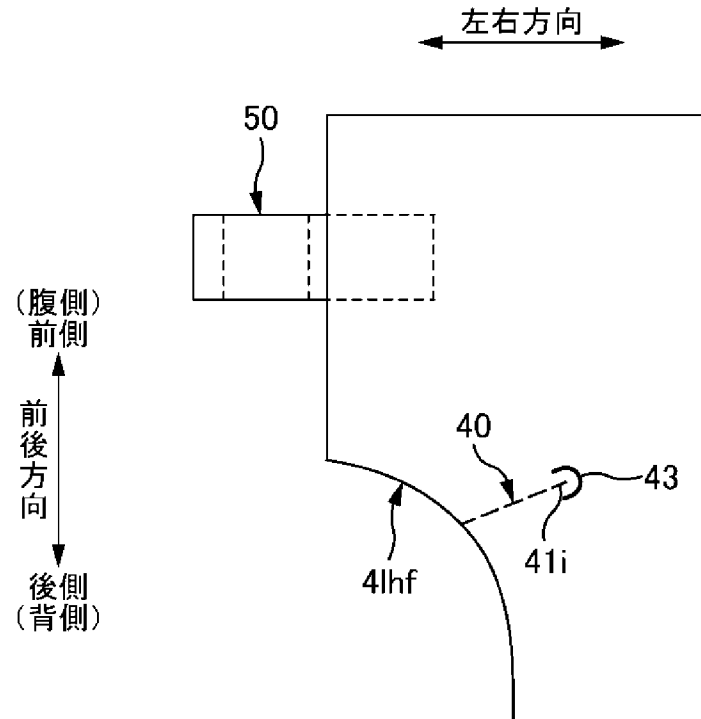


図8B



[図9]

図9A

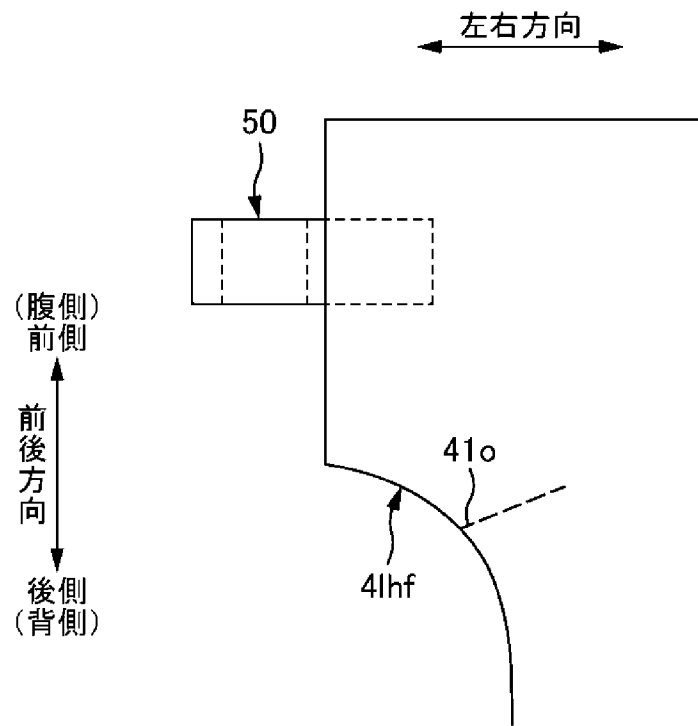
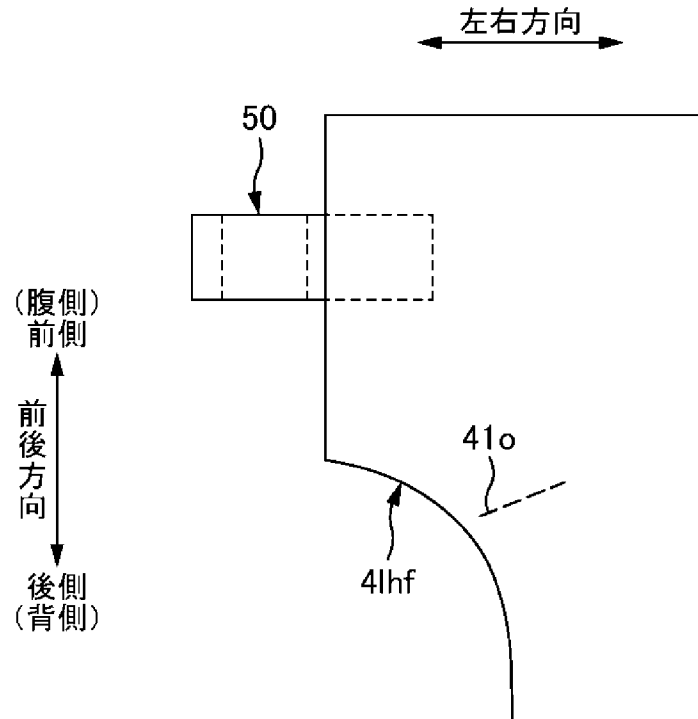


図9B



[図10]

図10A

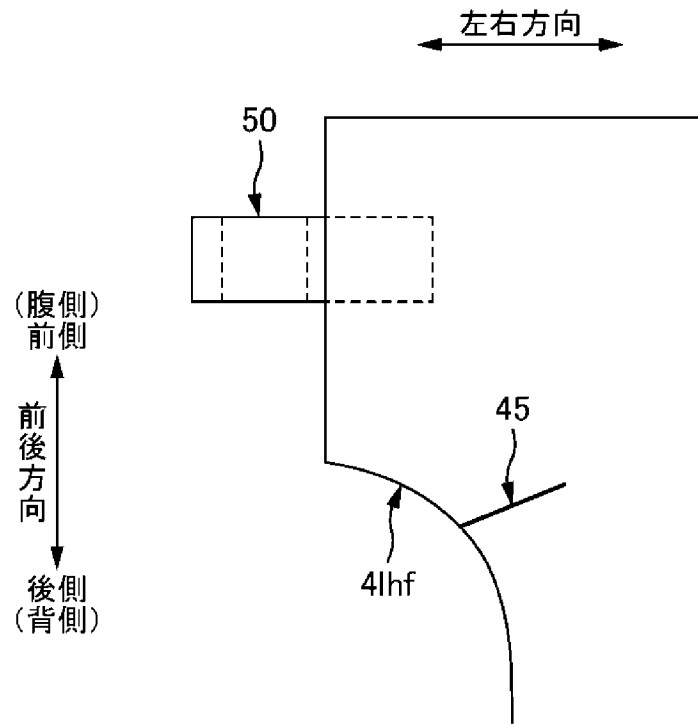
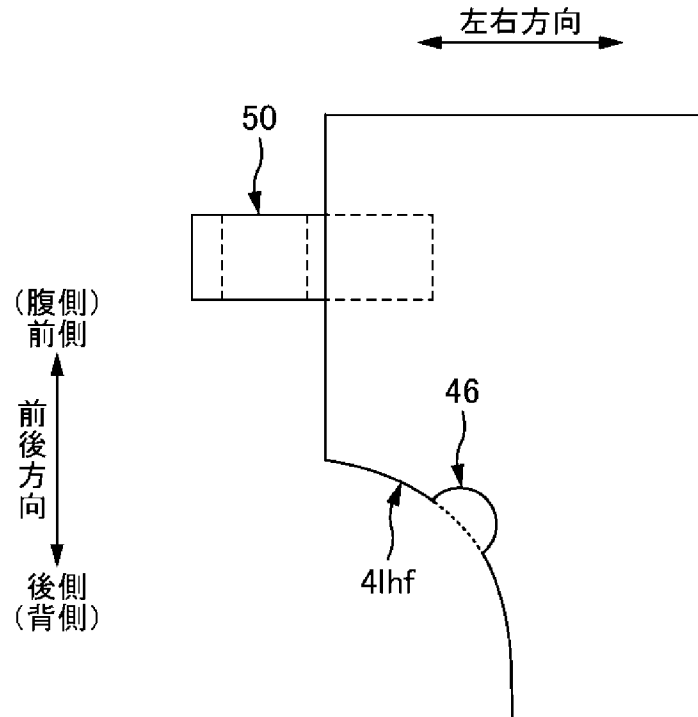
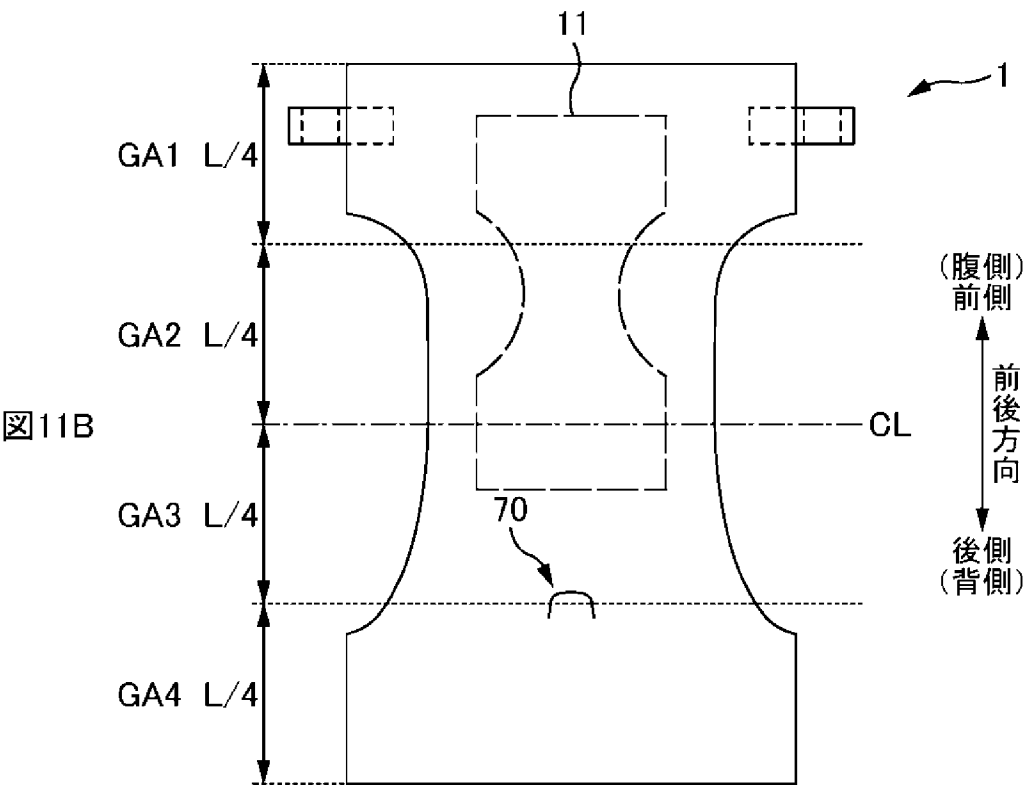
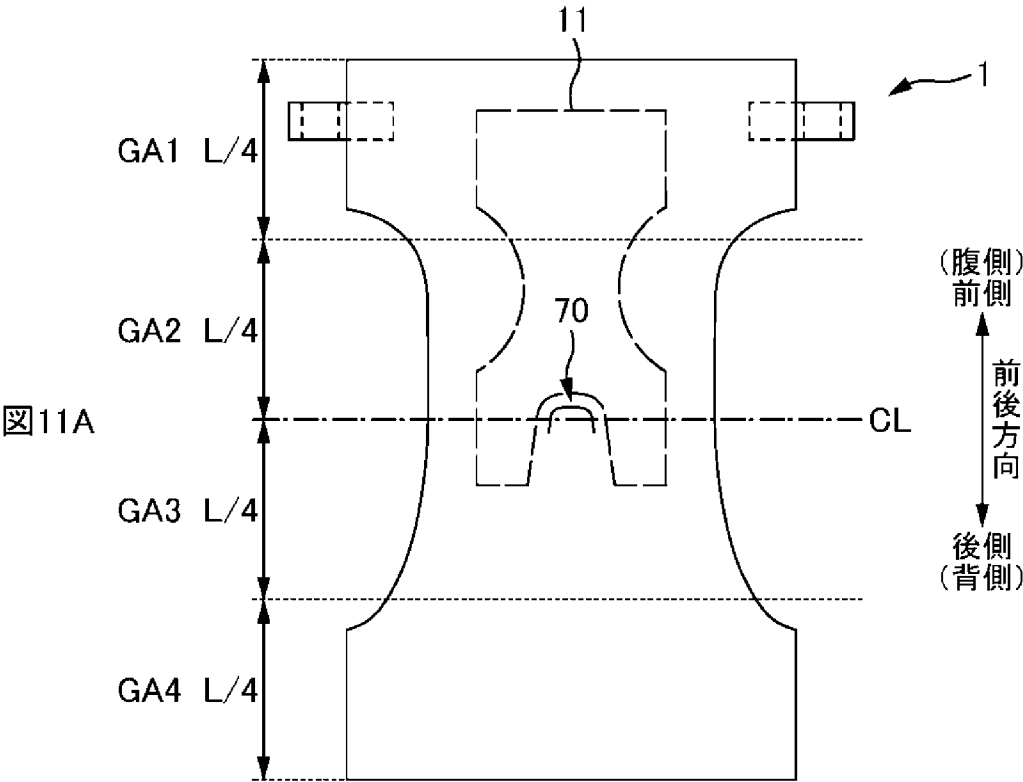


図10B



[図11]



[図12]

図12A

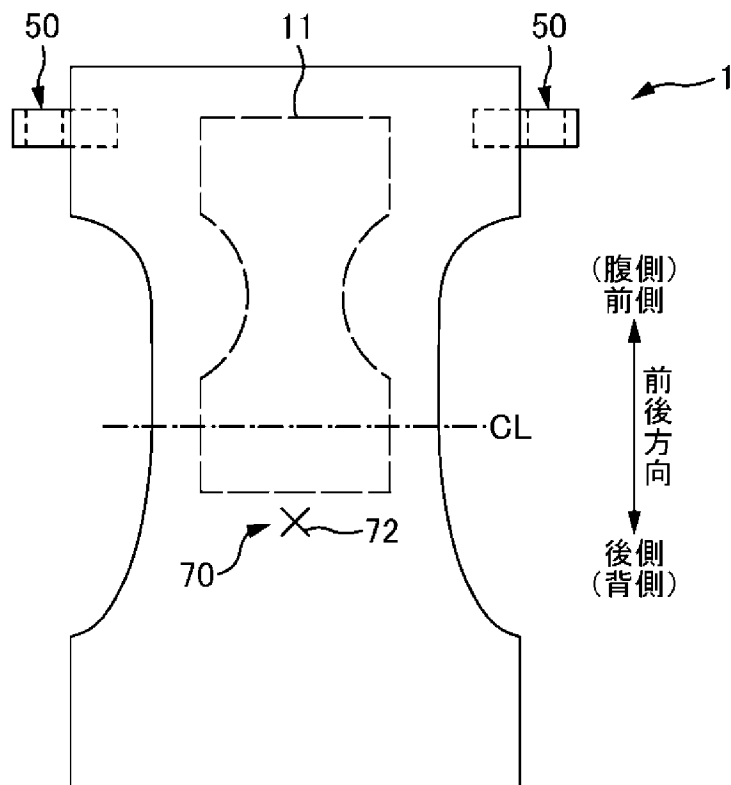
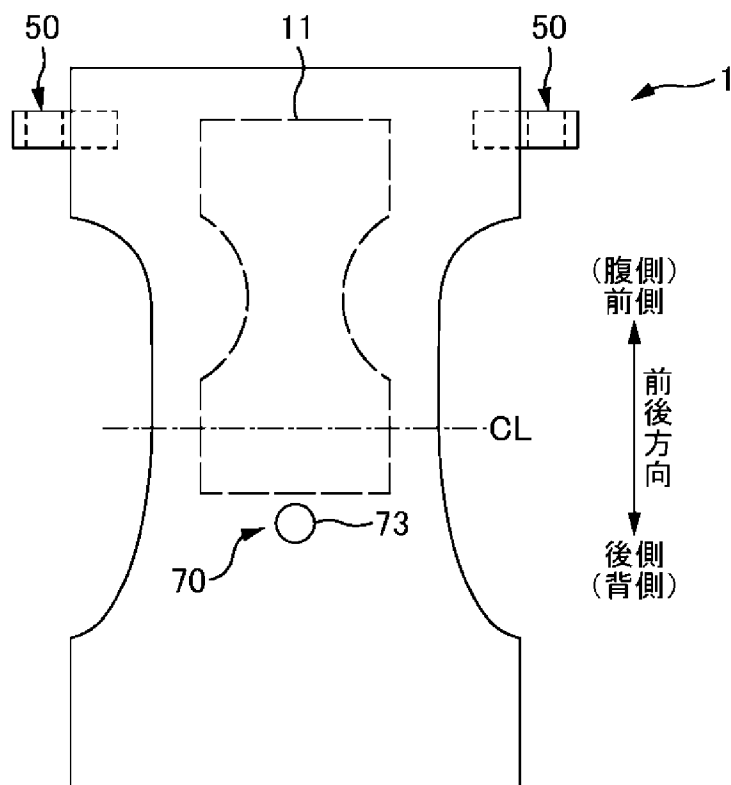
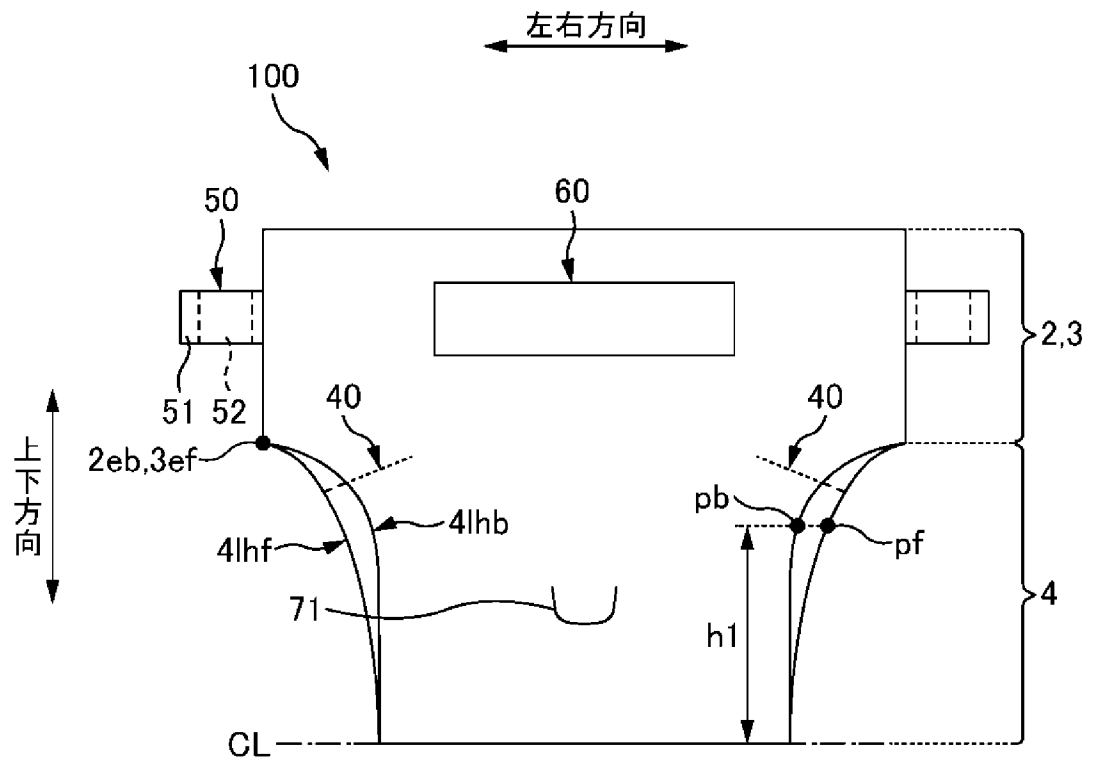


図12B



[図14]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2024/018390

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER A01K 23/00 (2006.01)i FI: A01K23/00 S According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A01K23/00 Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Published examined utility model applications of Japan 1922-1996 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2024 Registered utility model specifications of Japan 1996-2024 Published registered utility model applications of Japan 1994-2024 Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2022-154828 A (NIPPON PAPER CRECIA CO., LTD.) 13 October 2022 (2022-10-13) paragraphs [0013]-[0025], fig. 1, 3, 4	1-14
Y	WO 2017/077737 A1 (UNI-CHARM CO., LTD.) 11 May 2017 (2017-05-11) paragraphs [0017]-[0026], fig. 1-4	1-2, 5-14
Y	JP 2004-159591 A (UNICHARM PETCARE CORP.) 10 June 2004 (2004-06-10) paragraphs [0039]-[0042], fig. 1	3-14
Y	JP 2006-240692 A (TOPPAN PRINTING CO., LTD.) 14 September 2006 (2006-09-14) paragraph [0027], fig. 5	10
A	JP 2014-117175 A (UNI-CHARM CO., LTD.) 30 June 2014 (2014-06-30)	1-14
☐ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☒ See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: “A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance “D” document cited by the applicant in the international application “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed “T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art “&” document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 10 June 2024		Date of mailing of the international search report 25 June 2024
Name and mailing address of the ISA/JP Japan Patent Office (ISA/JP) 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915 Japan		Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2024/018390

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP	2022-154828	A	13 October 2022	(Family: none)	
WO	2017/077737	A1	11 May 2017	US 2018/0317455 A1	paragraphs [0026]-[0036], fig. 1-4
				EP 3372072 A1	
				CN 108347904 A	
				JP 2017-85906 A	
JP	2004-159591	A	10 June 2004	(Family: none)	
JP	2006-240692	A	14 September 2006	(Family: none)	
JP	2014-117175	A	30 June 2014	US 2015/0305307 A1	
				WO 2014/091849 A1	
				EP 2932834 A1	
				CN 104918481 A	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

A01K 23/00(2006.01)i
FI: A01K23/00 S

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））
A01K23/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの
日本国実用新案公報 1922 - 1996年
日本国公開実用新案公報 1971 - 2024年
日本国実用新案登録公報 1996 - 2024年
日本国登録実用新案公報 1994 - 2024年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2022-154828 A（日本製紙クレシア株式会社）13.10.2022（2022 - 10 - 13） [0013]-[0025], 図1,3,4	1-14
Y	WO 2017/077737 A1（ユニ・チャーム株式会社）11.05.2017（2017 - 05 - 11） [0017]-[0026], 図1-4	1-2, 5-14
Y	JP 2004-159591 A（ユニ・チャームペットケア株式会社）10.06.2004（2004 - 06 - 10） [0039]-[0042], 図1	3-14
Y	JP 2006-240692 A（凸版印刷株式会社）14.09.2006（2006 - 09 - 14） [0027], 図5	10
A	JP 2014-117175 A（ユニ・チャーム株式会社）30.06.2014（2014 - 06 - 30）	1-14

☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー
“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
“D” 国際出願で出願人が先行技術文献として記載した文献
“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献

“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
“&” 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日
10.06.2024

国際調査報告の発送日
25.06.2024

名称及びあて先
日本国特許庁(ISA/JP)
〒100-8915
日本国
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

権限のある職員（特許庁審査官）

伊藤 裕美 2B 9515

電話番号 03-3581-1101 内線 3237

様式 PCT/ISA/210（第2ページ）（2022年7月）

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2024/018390

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	2022-154828	A	13.10.2022	(ファミリーなし)	
WO	2017/077737	A1	11.05.2017	US 2018/0317455	A1
				[0026]-[0036], FIGs. 1-4	
				EP 3372072	A1
				CN 108347904	A
				JP 2017-85906	A
JP	2004-159591	A	10.06.2004	(ファミリーなし)	
JP	2006-240692	A	14.09.2006	(ファミリーなし)	
JP	2014-117175	A	30.06.2014	US 2015/0305307	A1
				WO 2014/091849	A1
				EP 2932834	A1
				CN 104918481	A